

令和5年度 江戸川区立第六葛西小学校 学校関係者評価 年度当初・中間報告書

学校教育目標	◎考える子○思いやりのある子○やりぬく子○元氣な子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○児童一人一人、教職員一人一人が輝き、笑顔があふれる学校 ○主体的に考え活動し、他者と豊かにかかわる子供 ○自己研鑽に励み、互いに学び合い、高め合う教職員
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>・校内研究や若手育成研修の充実により、教員の学ぶ意欲がより一層向上した。 ・ICTを文房具のように使えるようになり、深い学びに着眼した授業を構築できた。・6年生は全国学力調査の算数で、都の平均正答率を上回った。 <課題> 他の学年も学力向上を目標に、基礎・基本の定着を図る。		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策	
				取組	成果	成果と課題	評価		コメント
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一台端末やICT機を積極的に活用して、多様な学びの実現を図る。(校内研修3年目)</li> <li>各学期1回の江戸川っ子study week!の実施を通して、家庭でのлайн後での活用を推奨する。</li> <li>外部委託による放課後補習教室(2～6年)を週1回実施する。</li> <li>5、6年での教科担任制他各学年での交換授業を実施する。</li> <li>年3回の校内研修観察会、校内研修や1回程度の若手教員育成研修(フロンティアの会)を実施する。</li> <li>5年生における学力向上プロジェクトを実施する。</li> <li>年5回の区小教研や各種研究会での学びを校内で交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケートはタブレットは学習の役に立っていると思う。の肯定的評価が80%以上となるように学習面での活用を推進する。</li> <li>ICT機での家庭学習での活用率を向上させる。</li> <li>東京ベーンツドリル診断シートの正答率(2～6年)を70%にする。</li> <li>保護者アンケート「先生たちは、わかりやすい授業を目指し、授業を工夫している。」の肯定的評価を90%にする。</li> <li>東京ベーンツドリルテストを4月、9月、1月実施し、結果に算数の学力が向上するようにする。</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研究を進め、授業観察時ICTの活用はもとより教師の授業が向上している。</li> <li>ICT機での家庭学習については、江戸川っ子study week!において全員が取り組み経験を積んだと伝わりました。</li> <li>東京ベーンツドリル診断シートの正答率は全学年で上昇した。満点の割合も全学年で増加した。繰り返し取り組んだ単元とそうでない単元の正答率に差が見られるので、正答率の高い単元に取り組み機会を増やすことが期待される。</li> <li>東京ベーンツドリルテストを4月と9月に実施した。1月にも実施し、結果に算数の学力が向上するようになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの授業も誘導する指導から、自主性に力を入れて指導に代わっているように感じられました。</li> <li>先生方一人一人が楽しく自ら興味をもって子供たちが学ぶように工夫してくださっているのがとても伝わりました。</li> <li>算数人数指導では、とても分かりやすく丁寧に授業をされて安心しました。</li> <li>理科や社会でもタブレットを使った授業は現代に対応していると思いました。学習にタブレットを活用するのは資料取りが多いためですが、詳細な指導で書くことが少なくなり、そちらが習慣化されるものもあると思うので、なかなか難しいですが我が子にはどうにも活用できるようにしてほしいと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研究で取り組んだ成果を中間評価計画に反映させ、次年度以降も継続してタブレットを学習に役立てていく。</li> <li>江戸川っ子study week!以外の日についても、日常的にタブレットを家庭学習で活用しているように教材研究を行う。</li> <li>引き続き朝学習等を活用し、東京ベーンツドリルに日常的に取り組ませる。詳細な指導も必要にして、2学期の診断シートで正答率の低いものも引き続き定着させる。</li> <li>今年度の保護者アンケートについては1月に実施する。</li> <li>東京ベーンツドリルテストを4月と9月に実施した。1月にも実施し、結果に算数の学力が向上するようになる。</li> </ul>	
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書ノートを活用する。</li> <li>江戸川っ子学習コンクールに向けて、情報的分析や整理の仕方、自分の考えを表現する方法を指導する。</li> <li>区立図書館との読書科連携授業を各学年で年1回実施する。</li> <li>区立図書館職員や読み聞かせボランティア、図書整備がボランティアと連携する。</li> <li>江戸川区教育委員会指導事業による学校訪問により読書科授業の指導講評をいただき、指導力向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>90%以上の学級で江戸川っ子学習コンクールに向けて、読書ノートを活用した授業を行う。</li> <li>読み聞かせボランティアを協力し、すべての学級で読書聞かせを月に1回行う。</li> <li>図書整備ボランティアと協力して月に2回学校図書館を整備する。</li> <li>区立図書館職員によるブックトークを各学年年間1回以上実施する。</li> <li>読書月間に教職員による本の紹介を行う。</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み聞かせボランティアによる月1回の読書見聞かせを行った。</li> <li>図書整備ボランティアや区立図書館職員連携し、図書館の整備や図書室の整備やパーソナルシステム導入作業を行った。</li> <li>9月の読書月間期間に、教職員によるおやすみの本や読書文庫の展示を行い、全学年で東西西図書館職員によるブックトークを実施したりした。</li> <li>江戸川区教育委員会指導事業による学校訪問により読書科授業の指導講評をいただいた。授業改善に向けて取り組むことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み聞かせでは、子供たちは目を大きくして興味津々に聞かれました。</li> <li>先生生によるおやすみの本紹介は、どの学年にも合ったものがあつてよいと思いました。</li> <li>子供たちが先生方のおやすみの本を手にとれるように展示スペースを広げ、展示期間を長くしたいと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書分類の割合の最適化を目指し、図書室の環境整備を継続して行う。</li> <li>今後保護者や外部機関との連携を図りながら、朝読書や読書聞かせ、読書科の授業を通じ、読書の楽しみや書誌による調べ学習のよさを見出せるよう指導する。</li> <li>一人一台タブレット学習が進んでおり、タブレットを活用した調べ学習を行っている。必要な情報を収集し読み取り、自分たちで要点をまとわり、自分の考えをもち、表現したりする力を身に付けさせていく。</li> <li>指導室訪問で指導主事からいただいた助言を生かし、読書科の指導力向上を図っていく。</li> </ul>	
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・運動意欲・健康・体力の向上に向けた取組の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>休み時間を活用した運動遊びの日(5クスポタイム)を導入実施する。(たてわり遊び、長縄、短縄、持久走など)</li> <li>体力づくり重点月間を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クスポタイムを年に35回実施する。</li> <li>6年生の体力テストにおいて、平均値を都平均と同等にする。</li> <li>年1回なわとび月間、マラソン月間を実施する。</li> <li>運動会での肯定的評価90%にする。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>クスポタイムは予定通り実施できている。9月になわとび月間であり、全児童がなわとびに取り組む予定である。</li> <li>「たてわり遊び」は、9月に長縄跳びを行い、他学年交流の場になっている。</li> <li>12月から1月にかけて「マラソン月間」を予定しており、児童の体力向上につなげる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動会で子供たちの一生懸命頑張る姿を見て、子供が成長を感じるとともに、このような素晴らしい姿ができたのも目録の先生方のご指導のおかげに感謝しております。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>休み時間を使って運動遊びの一端の充実を図り、児童が日常的に運動する習慣を作っていく。</li> </ul>
	<体力テスト結果における分析及び活用の充実>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力テスト結果で課題のある動きについて、くスポタイムや体育の授業で工夫を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「体が動かすのが楽しい」と感じる児童の肯定的な回答が85%以上になる。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「体力テスト」は実施済み。結果が福き次郎、児童に合わせた指導により、このように素晴らしい姿ができたのも目録の先生方のご指導のおかげに感謝しております。</li> <li>今後の体育の授業でも、体が動かすのが楽しいと感じる児童を増やしていく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>始めに全員でおこころをこらして音楽を流してもらったり、楽しい体育でいいよと思いました。</li> <li>今後も継続して体育の授業を改善し、児童が運動の楽しさや味わえるよう指導していく。</li> </ul>	
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・ユニバーシティーの活用促進 ・副障交流、交流及び共同学習の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別な支援が必要な児童への学校生活支援シート、個別指導計画を作成し、一人一人のニーズを把握する。</li> <li>特別支援教育委員会を年に11回実施する。</li> <li>特別支援教育専門家、スクールカウンセラー、特別支援教室巡回指導教員との連携を図る。</li> <li>特別支援教育校内研修を年1回実施する。</li> <li>後継交流を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>配慮、支援を要する児童の把握を100%にする。</li> <li>特別支援教育委員会を年11回実施を達成する。</li> <li>特別支援教育校内研修を年1回実施を達成する。</li> <li>手帳による学際交流2名、直接交流2名を行う。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>通級支援教室を利用する全ての児童の学校生活支援シート、個別指導計画を作成し、指導の目標や実施の把握を行った。これ以外に特別支援が必要な児童については、コーディネーターが担任より相談を受け、SCや巡回指導担当教諭と連携し、支援の方法について助言した。</li> <li>配慮、支援を要する児童への把握はしているが、100%のフォローはまだできていない。</li> <li>特別支援教育校内委員会は現在まで予定通り実施しており、年11回実施の見込みである。</li> <li>特別支援教育校内研修も実施した。</li> <li>副障は、現時点で2名の間接交流1名の直接交流を続けている。今後1名の直接交流も開始され、3名も引き続き交流予定である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生が一人一人の個性に合わせて声掛けをしていたことが大変印象的でした。</li> <li>普救の様子や丁寧な関わりがよくなり感謝しております。一方で支援が必要なお子さんに支援が行き届いていない様子も見受けられ、該当のお子さんやその他のお子さんの学習環境や安全確保の観点から、もう少し人員を割いてほしいと感じました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援が必要な児童の担任、保護者からの相談が多く、都の巡回心理士の限られた実務時間の中で、どの児童を支援するか、進めが難しい状況である。校内委員会等で児童の実態をよく検討し、優先順位を決めていく。</li> <li>特別な支援・配慮が必要な児童のうち、外国籍児童に対する対応がもう少し十分ではない。調子が見つかれば、10月以降要請がある児童全員について、日本指帰を受けられるよう見通しである。</li> </ul>
	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-Qの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎週金曜日生活指導委員会を行い、児童の情報や対応、生活指導連絡協議会の報告などを共有する。</li> <li>ふれあい月間で児童アンケートを実施し、活用する。</li> <li>いじめ対策委員会を年3回以上実施し、組織的に対応するために取り組んでいる。」の肯定的評価を80%以上にする。</li> <li>いじめに関する情報アンケートを作成し、日常的な情報の共有を行う。</li> <li>hyper-Qの実施により児童の人間関係を把握し、学級経営の充実などに活用する。</li> <li>日常的なSWや児童相談所など、他機関との連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎週金曜日生活指導校内連絡会を実施する。</li> <li>いじめ不登校対策委員会の年10回以上実施を達成する。</li> <li>保護者アンケート「学校は、子供たちの生活の様子を見守りながら、いじめや不登校がない学校にしていきたい」と感じる児童が80%以上になる。</li> <li>いじめに関する調査において未解決の事案を10%以下にする。</li> <li>hyper-Qを実施し、その結果について分析を行う。分析結果をもとに、各学級での指導について見直しを図る。</li> <li>他機関とつながっていない児童をなくす。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活指導校内連絡会を毎週実施し、校内の課題について共有している。</li> <li>ふれあい月間における「いじめ防止研修」、夏休み明けの「Qアンケート活用研修」を行い、いじめ防止についての職員の見識を深めることができた。</li> <li>不登校対策については増加傾向にはなく、他機関とつながっていない児童はいない。</li> <li>不登校対策の児童全員の登校改善に向けた連携は、難しい状況にある。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>何かあった時すぐに連絡を下さり、対応をしてくださるのでも感謝しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10月に生活指導部から職員向けに不登校に関する研修を実施する。</li> <li>保護者向けに不登校に関する情報提供を生活指導部から行って、保護者の見識を広げたい。</li> </ul>
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実 ・学校説明会のお知らせを載せる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校(園)より、学年だよりを毎月載せる。</li> <li>学校(園)ホームページに学校の様子や給食の献立を毎日載せる。</li> <li>学校説明会のお知らせを載せる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケート「学校だよりやホームページなどに、保護者を発信している。」の肯定的評価を95%以上にする。</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページに加え、tetoruを活用して、学校だより、学校行事、その他学校からのお知らせを配信する。</li> <li>ホームページの情報更新が不十分であったので、今後定期的に更新できるようにGIGAスクール推進委員会で改善していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>常に手元で行事のお知らせを見ることができるようになったのでありがたいです。</li> <li>仕事をしているため、保護者が参加する行事のお知らせは、休みを取らなければいけない場合もあるので、1か月前までに詳細を知らせていただきたいです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、ホームページやtetoruを活用した情報発信を努めます。</li> <li>ホームページの情報更新を定期的に行う。</li> </ul>
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者や地域、学校評議員などからの日常の連絡や個人面談、運動会・学校公開・音楽会など行事の感想から評価を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度末の保護者アンケートで各項目の肯定的評価を80%以上にする。</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動会や学校公開では、Formsを活用したアンケートを行い、肯定的な感想をいただくことができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校で子供たちがどのように過ごしているか、友達とどのように接しているかなど、日頃見ることができない貴重な光景が見れてよかったです。出席番号によって公開時間が分かれているので、クラスの中がこたごたすともなぐりぐり見れてよかったです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Formsを活用したアンケートの実施を継続するとともに、アンケートへの回答を呼びかけ、回収率を上げる。</li> <li>保護者のニーズを把握し、学校経営に反映していく。</li> </ul>
特色ある教育の展開	<PTA活動の充実> ・様々なPTA活動を通して健全な児童を育成し、学校の教育活動への理解・協力を得られるようにする。 ・保護者が交流をもちながら子育てを楽しむ、相談できる環境を整える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各委員会のほか、サーキット、くまごま、親子レクなどPTAと協力して開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA行事年2回の教育参加を目指す。</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどの教員がPTA行事に参加し、保護者の協力的な関わりを構築しようとしている。</li> <li>各行事の内容はコロナ禍前のように充実してきたが、行い方を工夫しながら進められている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>六小はイベントが多くて、子供たちがたくさん楽しんでいるように大人たちが見守っている、とても良い小学校だと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事への参加の仕方や実施方法などは問題を踏まえ、よい方法を考えながら進める。</li> <li>親子レクについては、担当の保護者の方丁寧に連携を図りながら、協力的に進めているようにする。</li> </ul>
	<学校における働き方改革プラン> ・「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>SSSを効果的に活用する。</li> <li>月1回定時退勤日を設定し、保護者に周知する。</li> <li>文書のペーパーレス化を推進する。</li> <li>会議で話し合う内容を精選する。</li> <li>自動応答メッセージによる電話対応を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月の勤務時間において、外在時間45時間以上を職員を3名以内にする。</li> <li>会議の内容や進め方を工夫することで会議時間の短縮につなげた。</li> <li>会議にかける時間を平均40分以内にする。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校がよりやが年々であり、その他のお便りのペーパーレス化を実施した。</li> <li>会議の内容や進め方を工夫することで会議時間の短縮につなげた。</li> <li>留守番電話の対応時間が勤務時間と一致するようになった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>欠席連絡をオンラインで行えるようになったのはとてもありがたいです。他にもどんどんIT化を進めてペーパーレスにしたいです。</li> <li>SSSの業務内容を直直し、教員の業務負担軽減を図る。</li> <li>学校に連絡したくても、仕事を休んでいなくても連絡が取りにくく、どうにかしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、ICTを活用し、お便りなどのペーパーレス化を推進していく。</li> <li>SSSの業務内容を直直し、教員の業務負担軽減を図る。</li> <li>学校の方針に基づき、ホームページやtetoruに学校の働き方改革について掲載した。</li> </ul>